

尊敬する立木貞昭先生、在席される皆様

こんにちは！本日奨学生の代表として、こちらの授与式で感謝の言葉を述べる事ができて大変光栄でございます。

私は、リショウシンと申します。社会科学学院 2018 級の学生です。

ほとんどの清華大学の学生は、小学校からクラスの優等生として数多く表彰されてきました。私もその中の一員です。しかし、立木奨学金は、私がたくさんもらった賞の中で、最も特別なものとなり、人生についてたくさんのことを考えさせられました。

立木奨学金に応募した時に、下記のエピソードを選考担当の先生に話しました。

クラスの男子学生が、激しいスポーツの後に、食堂の前で倒れ、当時心臓も一時的に止まり、極めて危険な状態でした。次の授業のクラスに向かっていた私は、即刻欠席の連絡をし、自転車で倒れた学生のところに駆けつけました。間もなく、救急車が来て、私は他の学生と、付き添いで病院まで行きました。その後の何日間も検査と治療に付き添い、幸い、しばらくしたらその学生がようやく回復できました。

この出来事を先生たちに話したら、先生たちは即座に認めてくれました。担当の先生は、立木先生はわが学院で立木奨学金を設置することは、単なる成績優秀、著しい研究成果を持つ学生が選出されるのではなく、その上、正義感のある、社会のために貢献する、躊躇なく人の命を助ける人こそがこの奨学生に選ばれる対象になるでしょう、と言ってくれました。

私たちは、学習、研究をし続け、自分の学業や業績を高める最終的な目的と価値は、社会に還元することです。真心を持って、周りの人に手を差し伸べて、正義のために勇気を出すことができれば、自分自身の価値が実現、社会から認められることになります。

本日、私と同時に奨学生として選ばれた シギョウウさんは、学部のクラス担任も兼任しています。彼女は学生に対して、責任感が強く、ご自身の行動で大学に入ったばかりの学生に影響を与えています。立木先生の、自分の心と実際の行動で社会に良い影響を与え、社会に貢献する理念は、多くの人に影響し、さらに大勢の人が影響され、社会全体がお互いに助け合い、さらに感謝の気持ちで世の中が良い循環が広がります。

遠く離れていますが、立木先生のご厚意があり、私たちの間に同じ考え、同じ使命感があるからこそ、私たちはお互いに親しくなりました。国家と国家の間、人と人との間、異なる文化の間、このような心の壁を破る交流と善行が必要です。なので、人類は、お互い敵視そして切断ではなく、交流そして協力の中で各種の危機に面するべきだと感じました。立木先生は、ご立派な行動を通じて、日中間の交流と国際交流事業のために絶大の貢献をされています、このような行動はきっと多くの異文化の人に良い影響を与えいくと確信しています。

再度、立木奨学金に感謝いたします。私の人生に特別な経験を与えてくれて、私のような若い人が、人生について、世の中について、文化交流について考えさせられる機会を与えてくれて、ありがとうございました。今後、私たちは、必ず立木会長のお気持ち、責任感、ご使命を、もっと多くの人に伝えていきます。

立木先生、皆様、ありがとうございました。

リショウシン

2020年10月19日